



おはようロスアンゼルス

倫理研究所U.S.A. 南カリフォルニア倫理の会

3月号会報

2202 W. Artesia Blvd. Unit L Torrance, CA 90504

Fax: (310) 323-6737

2014年(平成26年) 3月1日(土)

NO. 151

田島康賢研究員のご出張
二月十四日(金)〜十六日(月)まで出張、色々な学びを頂きました。

経営者の集い

二月十四日(金) 午後七時から、オフィスで経営者の集い・「朝礼の効用 Part2」と題してセミナーを開催しました。講師に本部法人局普及事業部・田島康賢研究員を招き、前回の有坂研究員の講演の続きとして開催されました。

今回は福岡県のテレビ局で放映された「朝礼コンテスト」の模様を視聴し、日本の朝礼に対する考え方やその効用についてを実感することが出来ました。特に日本人としての礼儀や挨拶を活力朝礼で学ぶと共に、互いに働く職場の活性化、情報の共有化、さらには人材育成の場として朝礼が大きな役割を担っていることを知りました。

次に、「傾聴」について実習を通して学びました。傾聴とは積極的に聴くということ、その働きはどのようなものかを実践を通して確認することが出来ました。

実習は二人一組でゲーム感覚で実施されましたがみんな真剣です。最初の実習は聞く側が相手にそっぽを向いてまるで相手にしないで聞き、話す方は一生懸命自分の好きな食べ物や自己紹介をするというもので、約三十秒間やりま

す。その次は、話し手は同じ内容で話すのですが、聞く側は相手の話に相槌を打ったりして良く聞いてあげる、ということを一週間やりました。三回目は、お互いに自由に自己紹介をした上で、話す側は

「今、ちよつと問題になっていること」「気になっていること」をテーマに話をし、聞く側は良く聞いてやるという態度で聞いてやる、ということと二分間。最後はお互いに自己紹介や好きな食べ物、出身地などを自由に話すというやり方で、二分間実施しました。

結果は最初の三十秒はともつらく長いもの、次はとも話しやすく一分間が短く感じ、三回目は話を引き出すまでとなり、最後は二分間では到底足りないものとなりました。

この実習を通して話を聞く態度と、常日頃自分の生活の場でどのような聞き方をしていくかを反省すると共に、今後は生活の場や職場での「聞く態度」に気をつけようと思えました。新しい実践のスタートですね

次はフラフープを使ってチームワークの実習です。フラフープに七人が集まり指でピストルを作りフラフープを下まで下げていくというゲームです。途中で指がフラフープから離れてしまったら最初からやり直しというものです。が、なかなか最後までいきません。ここではそれぞれの人の性格や役割が見えてきてとても参考になりました。これは職場などで誰をどこに配置するかなどを決めるには最適なゲームでした。

以上のような実習や講義を通して経営や家庭でいかにそのものを楽しく学ぶことが出来ました。今回の参加者は必ずしも経営に関係する人ばかりではありませんでしたがそれぞれの方がそれぞれの立場で学べたことと思います。今後は表題にありますように「経営者の集い」にふさわしい方々が多く参加してもらえ

ような努力をしていきたいと思えます。

田島先生、すばらしい講義をありがとうございました。

(飯田隆記)

純粋倫理勉強会

―発願還元の原理―

二月十五日(土) 午前十時〜十一時半まで倫理オフィスで開かれた。講師は田島康賢研究員。

白板に木の絵を描き、枝葉は十七ヶ条、三本の太い枝は明朗、愛和、喜働、幹は純粹(すなお)、そして目に見えぬ根が七つの原理と解説された。

他人が「倫理とは何ですか?」と聞いたら何と答えるか。

答えは『栞』の「序」に「それは、宗教でも、主義でも、学説でもない。実行によつて直ちに正しさが証明できる生活の法則である」と書いてある。

しかし、倫理は正しく理解しなければいけない。

「序」の最初にある「苦しみを喜んで迎え、病気になるれば「おめでとつ」という時代が来た」というのは、

自分に対して言っている言葉である。自分が病気になる時、病気のおかげで色々なことを気づかされた自分に「良かったね。おめでとう」なのである。

倫理の学びは自分の実践であるから『栞』に照らし合わせて他人を責めてはいけなし、自分を責めるのも良くない。

倫理は自分を律する学びであるが、そのために暗くなってしまうてはいけない、倫理は学んだら明るくなるべきものであると、倫理の学びの本質を非常にわかりやすく話して下さった。

レジュメを元に、振り子の法則には①反対現象の往復②同種の真意の体験、の二種類があるとされ、上がり下がり、下がった時にこそ倫理を実践すれば心が持ち上がり、明るくなるきつかけとなる。何事も出すのが先、入るのが後。入るのは形を変えたり、長い時間をかけたりするので、長い目で見ることや、今起きている現象より少し高い所から見るように自分を訓練することが必要だと説かれた。質問にはご自分の体験を通して回答され、本当にわかりやす

く、倫理が良く理解できた勉強会であった。

(参加者十三名)
(ホン史子記)

朝の講話

二月十六日（日）午前八時半より九時半まで田島康賢法人局普及事業部研究員をお迎えし、倫理モーニングミクスチャー・「朝の集い」を行いました。

『栞』第十一条「万物生々」についてご講話を頂きました。

初めに自己紹介をされました。先生は二十八歳の時に倫理研究所に入所され今年四十歳になられます。

本題に入られ『物は生きていく』と皆さんは思われますかと出席者に問い掛けられ、そう思う人は手を挙げてくださいと言われ、多くの方が手を上げられた。生物学的にいうと（代謝機能があるか）（生殖機能があるか）の二つの機能があることを生きていくというそうです。けれども倫理では存在する物は生きていく。その物を大切に喜んで使うとその物が良き働きをしてくれる。物には使命があり、

人間には生命があつて、お互いいつも響きあっている。

生活する上でいつもお金が付き物である。体の部分部分にお金にする言葉が多くある。①頭金 ②口座 ③耳を揃える ④太つ腹 ⑤へそくり ⑥手付金 ⑦帳尻を合わせる ⑧御足等々。お金は喜んで先に出すことが大切である。

その人その人に必要なだけ与えられる。「要物必与」。

世の中の仕組みを企業に喩えると企業が社会に貢献することが第一でその結果として利潤が企業にもたらされる。（振り子の原理）。

世界の長寿十社の内七社が日本である。京都に多くの長寿企業（酒屋・旅館等々）がある。世界一長寿企業は九百三十七年続いている、新潟県の旅館『高半』である。そのご主人に「どうして長く続いているか」と質問した所「三ちゃん経営だからでしょう」との答えであった。「三ちゃん」とは父ちゃん・母ちゃん・兄ちゃんとの事・・・いつもお客様を第一に考え、ゆつたりとしたひとときを楽し

んで頂く為に家族で心を合わせて御持て成しをさせて頂く事で、お客様に長く可愛がって頂く旅館にならせて頂いたのではないかと・・・「先義後利」まずは相手を喜ばす事を優先するのが大切であることを学びました。

（出席者二十八名）
（梅本和子記）

FM106.3

毎週月曜日朝八時半ごろにTJSラジオで『職場の教養』を佐伯和代アナウンサーが読んで下さっています。是非お聞きください。

Save the date

四月十三日（日）
倫理セミナー
相馬紀子専任講師
五月十八日（日）
倫理文化講演会
荒木良仁研究員

倫理セミナー

二月十六日（日）午前十時～十一時半、オフィスで開かれた。講師は田島康賢研究員。テーマは「勇者の選択」。

東京行き東北新幹線は突然いままで経験したことのない強烈に体に響きわたった急ブレーキがかかって停車。怖くて身震いした次の瞬間、車体は幾度も大揺れして女性客の大悲鳴も加わって列車内は大ショックでパニック状態。

その何分間かの中で妻宛に別れのメールを書くほどの生の大恐怖を伝えてくださった貴重な体験談は私たち南カリフォルニアにいる聞き手の心の奥深くまで届きました。

それは東北地方へ家庭倫理を普及、促進させるための出張が終わって帰路の途中のことでした。携帯電話は通じなかったのに滞在中一緒に普及などに尽力した会員の方々にメールを送ったところ、そのうちの一人から電話があり大地震のことを直接聞くことができました。そのときその会員さんは車で

避難中たまたま交通渋滞で停車中に車の中から田島先生に電話してくださいました。無事できてくれたと思ったその会員さんも後から聞いた話でしたが車ごと遺体でみつかった知らせには先生も相当につらかった様子でした。

倫理の会員以外でも、根がよくて辛抱強い人たち、人のために生きてきた人たち、あの善良な東北の多数の人たちが亡くなってしまっただけで先生自身も長いこと落込んでいました。

かつて、先生は父親の会計事務所が大借金を背負っていたとき家族全員で働いて立ち直った経験と、産婦人科医池川明さん等の幼稚園児胎内記憶調査結果（雲の上の話し、人生）などを知ってから、その後、落ち込みから立ち直り、今ある自分に気づきました。つまり、すばらしい東北の犠牲者の方々は「勇者」であると思うようになりました。このような厳しい経験をしたおかげで今の自分があること。これからどう生きていくか。へん生の選択に当たって、もっとしっかりしなければならぬと

いう気持ちが強くなってきました。

はるばる大雪の東京から出張して貴重な講話、体験談をありがとうございました。

（大竹信雄記）

懇親会

二月十六日（日）正午からオフィスにおいて田島康賢研究員を迎えて懇親会が行われました。

テーブルいっぱい並べられたご馳走は皆さんが懸命に作ってくださった心づくしの味が伝わって来、満腹感だけでなく皆さんとの一体感まで味わったそんなムードの食事会だった感じがします。

ケーキのデザートの後には若き日にかえって(?)という訳でもないのでしょうかがフラフラゲームで大笑い、田島先生への感謝のプレゼント贈呈。最後は会のますますの発展を願い橋勝雄会長の三本締めでお開きとなりました。

出席者 三十三名
（氏家正子記）

佐藤乃布子さん

二月二日（日）のモーニングミクサーで広島法人会の佐藤さんが倫理スピーチをして下さいました。

最初に笑顔で指摘して下さいましたのは『葉』の持ち方。

「『葉』は両手で目の高さを持つと姿勢が良くなりますよ」とやんわりと皆の姿勢を正された。また輪読で「ハイ」と言っていて自分が読んだ箇所は自分にとって教えられる箇所である、と『葉』の読み方を教わった。

倫理は気づくことが大切で、「気づいて実践」の繰り返し。倫理の学びであると言われる。

倫理に誘われ入会された当時のお話しや、東京から広島に移ってからの倫理のお仕事など楽しくお話し頂いた。倫理の教えを守って幸せな日々を送っておられる佐藤さんに教えさんを見習って私たちも倫理の学びを深めたいと切に思いました。佐藤さん、ありがとうございました。

おめでと〜う〜いいます

『しきなみ』二月号

群螢集（西東京・海外）

一席 梅本和子

姑は幼子のごと安らぎて「おててつないで」

嬉嬉とし歌う

童歌を散歩をしつつ口遊む幼に帰る姑九十

三歳

評 「おててつないで」の歌声が聞こえて

くるようです。「今」がずしりと重く大きな

意味を持つている気がします。戦後の幾多を

超え外国の地に、しっかりと根をおろされた

お姑様。「幼子のごと」に言いようのない愛

しさが感じられます。

飛雲集（西東京・海外）

一席 伊澤潤子

指先にみようがの香りうつすらとかげば懐

かし故郷の味

野沢菜をきざめばふいに葉を洗う冷たき水

の音聞こえくる

評 「みようが」に「野沢菜」と、いかに

も日本ならではの風味のある食材をモチー

フにした故郷讃歌。葉を洗う音さえ聞こえる

二首目は切ない

『秋津書道』二月号

競書

入選 滝川政和

芸術部

（人の部）

八席 梅本豊造

高等部

（東京）

入選 堀井幸江

々

々

入選 長谷川松子 々々

入選 咲田静子 々々

競書 一般部

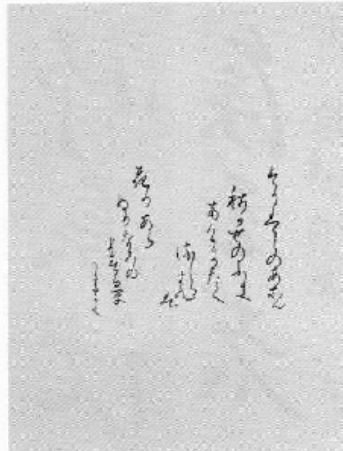
八席 前田グレース（東京）行書

入選 竹内康子 々 楷書

入選 ノーリスてるみ 々々

調和体 二席 咲田静子 高等部（東京）

天の部



滝川 歌子



2席 南カリフォルニア 咲田 静子

しきなみ短歌

孫四人授かり今の人生は多くの人の助けに感謝 梅本豊造

元日に四代揃い佳き朝は晴天なりて門出を祝う 梅本和子

安らぎと淋しさ二つ裡に持ち独居で迎える四度

めの初春（はる）を 門園美枝子

吾の腕に抱かれ笑まう幼な孫待てずに奪う夫に

も笑まう ホン史子

テーブルに族揃いて屠蘇を酌む日本人の血未だ

消えずに 松永典子

病む姑の運べど傾く匙の端の柔きご飯は落ちて

しまいぬ 草野律子

三歳に成りたる犬は野山かけ名前を呼べば吾に

向い来る 摺木洋子

どこからか集まって来てくると空に輪を描

く鳥の大群 松元依子

寒椿ワイングラスにそっと入れ夫は年始の膳に

飾りぬ 滝川歌子

寒の入りロス肌寒きこの朝椿のつぼみあまたふ

くらむ 奥本洋子

空青くカイルアコナのおだしき海渚を駆ける孫

を追うカメラ 杉野和子

アメリカでごった煮というお煮しめはチキンと

野菜を大鍋で煮る 長谷川松子

留守電は姑の元気を響かせてやさしさあふれる

部屋と変わりぬ 塩出笑子

ハイヒール履けば背筋がピンと伸びきのうと違

う私発見 伊澤潤子

寒暖計示す温度は同じでも感じる寒さは倍以上

なり 飯田隆

ちかちかと寿命の近づき知らずごと蛍光灯はあ

わや燃えゆく 矢口裕司